

## 出版の自由についての決議案

### 出版の自由についての決議案\*

ブルジョアジーは、金持が新聞を発行し、資本家が定期刊行物を強奪する自由を、出版の自由と解してきたが、実際には、この強奪は、あらゆる国で——もっとも自由な国も例外ではなく——いたるところ、定期刊行物を金次第のものにした。

労働者・農民の政府は、資本の圧迫のもとから定期刊行物を解放し、製紙工場と印刷所を国家の所有にうつし、一定の数（たとえば、一万人）に達した、それぞれの市民グループに、用紙ストックの適当な部分と印刷労働の適当な量とを利用する平等な権利をあたえることを、出版の自由と解している。

資本の圧迫からの勤労者の解放と不可分に結びついているこの目的を実現する第一歩として、臨時労農政府は、定期刊行物と資本とのつながり、その資金と収入の源泉、資金醸出者の顔ぶれ、その欠損の埋合せを、総じて新聞の全経営を調査する審査委員会を任命する。帳簿、決算報告書その他の記録文書を、審査委員会にかくすことも、意識して不正直な証言をおこなうことも、いずれも、革命裁判所によって処罰される。

すべての新聞所有者と株主も、すべての勤務員も、ペトログラードのスモーリヌイ女学院内の審査委員会——定期刊行物と資本のつながりと、資本にたいする定期刊行物の依存性とを摘発するために設けられた委員会——に、質問事項についての書面の報告と情報を即時、提出する義務を負う。

審査委員会には、つぎの人々を任命する。委員会は、その構成員を補充し、専門家および証人を召喚し、すべての帳簿の公開を要求する等々の権利をもつ。

\* 手稿には標題がついていない。文書の標題は、マルクス＝エンゲルス＝レーニン研究所がつけたもの。

第 26 卷 P288~289 『出版の自由についての決議案』

1917 年 11 月 4(17)日に執筆

1932 年 11 月 7 日にはじめて新聞『プラウダ』第三〇九号に発表

手稿によって印刷